

ファイルモンへの手紙

キリスト・イエス様の囚人パウロと兄弟テモテから、わたらの愛する協力者ファイルモン、姉妹アフィア、わたらの戦友アルキボ、ならびにあなたの家にある教会へ。わたらの父である神様と主イエス・キリスト様から恵みと平安があんたらにあるように。

わたしは、祈りのたんび(度)にあんたらのことを思い、いっつも神様に感謝しとる。そりゃあもう、主イエス様に対するあんたの信仰と、聖徒らに対するあんたの愛について聞いたけえじゃ。わたらの間でキリスト様のためになされとるすべての善い業をあんたが知り、あんたの信仰の分かち合いがますます活発になるよう祈っとる。兄弟、わたしはあんたの愛によって大きな喜びと慰めを得た。聖徒らがあんたのお陰で元気になったけえじゃ。

ところでじゃ。わたしは、あんたのせにゃあいけんことを(しなければならぬことを)、キリスト様に代わってストレートに命じてもええんじゃが。ここは情に訴えてお願いする。年老いて、今はまたキリスト・イエス様のゆえに囚われの身となつとるこのパウロから、獄中で生んだ我が子オネシモのことで、頼みがあるんじゃ。あんには(彼は)、以前はあんたにとって何の役にも立たんかった。ほいじゃが今は、あんたにもわたしにも役に立つもんなつとる。わたしの心そのものであるオネシモを、あんたのもとへ送り帰す。ほんまは、わたしのところにおらして、福音のゆえに囚われの身となつとる間、あんたの代わりに仕えてもらおうかとも思うたが、あんたの承諾なしには何もしようない。そりゃあ、せつかくのあんたの親切が、無理矢理じゃのうて、自発的になされるようにと思ふけえじゃ。オネシモがあんたのもとから離されたんは、おそらく、あんたがあんにを永遠に取り戻すためじゃったかもしれん。今度は、奴隷としてじゃのうて、奴隷以上の者、愛する兄弟としてじゃ。オネシモはわたしにとつても、あんたにとってはなおのこと、一人の人間として、主を信じる仲間として、愛する兄弟なん

じゃけえ。わたしを友だちじゃ思うなら、オネシモをわたしじゃ思うて迎えてくれんか。もしあんにがあんたにわりい(悪い)ことをしたり、負債があるんなら、わたしに請求してくれんさい。この手紙はわたしの自筆じゃ。わたしが払う。—あんたがわたしのお陰で今日あることはこの際黙つとこう—ほうじゃ!兄弟!主によって、喜ばしてくれんさい。キリスト様にあつて、わたしを元気にしてくれんさい。

あんたが聞き入れてくれると信じてこの手紙を書いとる。いや、あんたはわたしの言う以上のことをしてくれるじゃろう。ついでに頼んどくが、わたしのために宿を用意しといてくれえ。あんたら祈りによって、そつてに行けるようねごう(願う)とるけえじゃ。

キリスト・イエス様のゆえにわたしと共に囚われの身となつとる、エパfrasがよろしゅう言うとる。わたしの同労者、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカもよろしゅうとのことじゃ。主イエス・キリスト様の恵みが、あんたら霊と共にあるように。